関係人口と協働する
【文化継承】

2022

持続可能な集落創造プロジェクト
～歴史的資料を活かした集落づくり（古地図調査班）～

図 1　ヒアリング調査の様子

実施者

≪教　員≫千葉工業大学 創造工学部 建築学科 藤木研究室　藤木 竜也 准教授
千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 磯野研究室　磯野 綾 助教

≪参加者≫千葉工業大学 創造工学部 都市環境工学科 磯野研究室　大島

≪協働パートナー≫
【行政】南房総市 市民生活部 市民課 市民協働グループ　【市民団体等】南房総市大井区ほか

1. 背景・目的

南房総市大井集落において保里家・遠藤家が保有していた古地図・古文書は，かつての大井集落及びそこに隣接してあった嶺岡牧の様相を垣間見ることができる貴重な資料であり，集落の歴史的価値を裏付ける貴重な資料である。

本プロジェクトは持続可能な集落創造のもと，集落の価値を改めて評価することにより，伝統文化や歴史的資料を活かした集落づくりに寄与すること目的として，取り組むものである。

昨年度は①古地図の一部は，江戸時代三大改革後に実施された嶺岡牧の変革と同時期に作成されていること。②古地図ごとに描画範囲と要素が異なることから，地図の作成目的（主題）が異なる可能性があること，③複数の場所の景色から得られた情報を統合し，古地図を描いていた可能性があるという，3 点の仮説を得られた。

これらの結果を受けて，本年度は次の 2 点に取り組む。

・古地図と現在の地形図を重ね合わせる補正（以下「歪み補正」という。）を行うことで，描画対象範囲内の地図精度の差の有無等から，古地図作成当時の地域の空間認識や景観特性等を明らかにすることが可能か検討するため，本年度は歪み補正の手法の検討及び資料取集を行う。

・昨年度に引き続き古地図や文献の整理を行う。複数の資料の比較を通し，昨年度は判読･特定が出来なかった地名等を明らかにする。

2. 活動内容

（1）古地図の歪み補正の手法検討

古地図と現在の地形図を重ね合わせる補正は以下の手順で行った。

・昨年度作成した古地図掲載情報データベースを利用し，古地図に描かれている施設及び地物を選定した。そのうえで，既に位置の同定が住んでいる木戸・寺社の他，現在の地形図と比較し，古地図に描かれている地物・施設等の内，現在の地形図で位置の同定ができる箇所（以下「共通描写点」という。）を抽出した。

・古地図に描かれている施設・地物の内，古地図と現在の地形図との比較では位置が特定できないもの（古道の辻等）については，大井地区長及び住民の方へのヒアリング調査から古道の特定等を行い，共通描写点を特定した（図 1）。

・以上から抽出した共通描写点 18 か所（図2）を基に，Q-GIS を用いて歪み補正を行い，古地図作成当時の地域の空間認識や景観特性等を明らかにするための手法として，この手法の適否について検討した。

（2）地名特定をするための古地図及び文献の整理

施設及び地物だけでなく，小字などの境界から共通描写点の抽出ができないかを検討する為，また古地図記載されている地名の整理が昨年度からの継続課題であった為，地名に関する古地図及び文献の整理を行った。

描画範囲が集落内に限定されている古地図の内，地名境と推定できる境界が記載されている古地図から共通描写点の抽出の可能性を検討するため，網羅的かつ詳細に大井地区内の小字境を示す資料として，昭和初期に作成された大井区字限図について，その内容について確認を行った。字限図は全 4 巻存在し，各巻に対象範囲内の大井区字別略図，大井区字別精図（地番一筆ごとの境を示す地籍図に類する図）が綴じられていることを確認した。更に，各巻の対象範囲を古地図上で特定すると共に（図 3），古地図内に記載された各小字境との共通描写点の抽出の可能性があることを確認した。

また，古地図に記載されている地名には地区内だけでなく，周辺の集落の名称が記載されているものの，市町村合併等により現代の地図からは推定できない地名もある。昨年度は未着手であった古地図に記載されている地名について，1844 年作成安房地図等との突合により特定を行った結果，周辺 19 集落の名称とおおよその位置の特定が出来た。

3. 成果と課題

18 か所の共通描写点による歪み補正を実施したところ（図 4），川の流形や土手垣の位置が現在の地図とほぼ一致できるような補正ができたことから，地図の歪み補正の手順は妥当であるとの結論を得た。また，手法検討の過程で明らかとなった以下の点から，古地図作成当時の地域の空間認識や景観特性等を明らかにするために，歪み補正は有用な手段の一つになりうるとの仮説を得た。

・共通描写点を抽出にあたり，古地図に記された道路の辻・昔の川の流形や合流地点を同定できた。特に道路は古地図に描かれた古道の一部が現在も使われていることが明らかとなり，大井集落における地域の歴史的価値を表すものの一つといえる。

・古地図と現在の地形図との歪み補正の結果，大徳院周辺は歪みが少なく，各施設や地物の位置関係が他の場所と異なり，地図の精度として高く描かれている。他方，共通描写点がなく歪みが大きい地域は主に山中の他，大井集落東側一部が該当した。この地域は新田開発が行われたものの隠し田の可能性がヒアリング調査から明らかとなった。これらは，地図の描写精度の違いの背景に当時の地域の空間認識がある可能性を示すものである。

また，地名を特定するための古地図及び文献の整理では，地区内の小字境の同定ができる可能性が見いだせたほか，周辺集落の地名及び位置の特定できた（図 5）。これらは，昔から残っている建造物だけでなく，小字や屋号等も地域の過去の様相を追認するための手がかりになる可能性及び地域の資産となる可能性を示唆するものである。

今年度は昨年度より数を絞って古地図の調査を行った結果，古地図をより詳細に調査できたことにより，古地図の特徴を残している集落であることを改めて確認できた。

4. 今後の展開

引き続き古文書・古地図の解読・分析を進めると共に，今回行った歪み補正等や文献調査から，集落の特徴や歴史的価値を立証することが求められる。その為には，今回抽出した共通描写点以外にも，古地図に記載があるものの位置の同定が出来ていない小字界や墓地・共有地（萱場）等の調査を進め，新たな共通描写点の追加が可能か検討することが必要である。

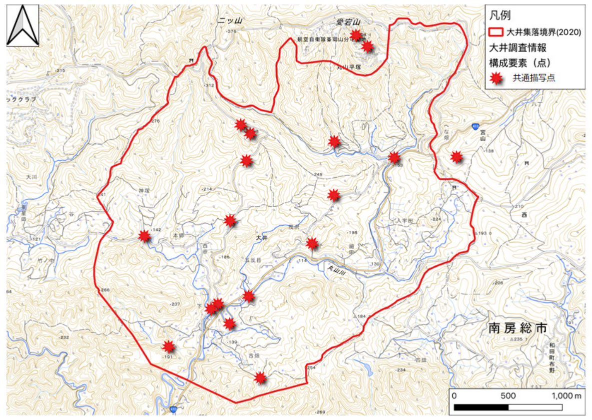

図 2 共通描写点の位置

図 3　字限図各巻と各巻掲載範囲を古地図上に描写した資料

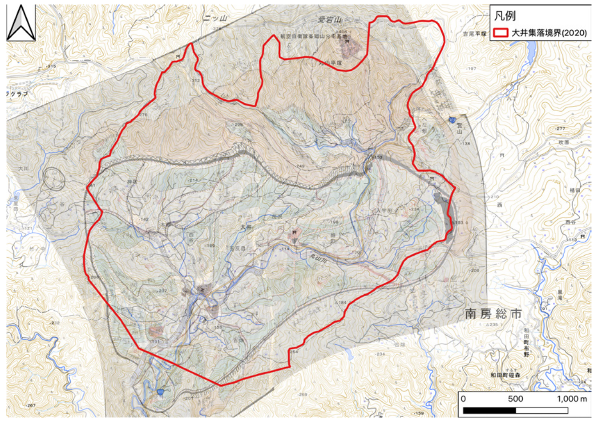

図 4　古地図と現在の地形図との重ね合わせ図

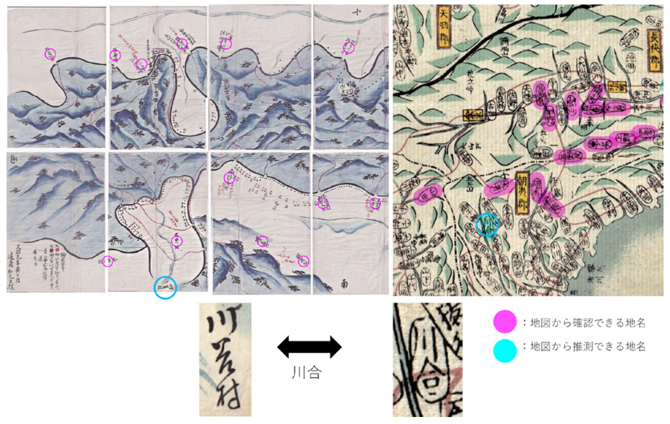

図 5　古地図の比較による地名の同定（一部抜粋）

域学協働の工夫！

★古文書・古地図を保有する地域との協力関係を，区長の協力のもと広げた（①）
★クラウドストレージを活用し，地域及び関係者間での資料やデータの即時共有を可能とした（②）
★古地図・古文書を地元区長がスキャンし，それを元に千葉工大側で内容の解読等を行う等，役割分担を明確にした（③）
※②③は昨年度からの継続的な取り組み

＊表彰・マスコミ掲載など

・2 月 27 日に日本建築学会関東支部研究発表会にて研究成果の一部を発表した。
大島悠登，鎌田元弘，磯野　綾：大井集落に継承された古地図の特徴とその一考察，日本建築学会関東支部研究報告集，No.92，2023